

グループワークで活発なご意見をいただきました。各グループからいただいたご意見と、それをもとに事務局で共有した、今後の方向性をまとめて報告します。

(1) 第2回健康づくり推進のつどい（にこフェス）を振り返ろう 【グループワークでの意見】

◎ 良かった点

- ・体験ができ、参加者の記憶に残った。健康づくりへの気付きを促せた。
- ・子どもが喜ぶ内容や体験を企画し、親自身の健康に関する気付きを促すというやり方は効果的だった。親世代の体験もやっていきたい。
- ・未来新聞の内容が活かされていた。目的と計画を意識して企画されていた。
- ・SNSでの周知、QRコードを活用した申込が良かった。
- ・おみやげを色々もらえるのが集客にも良い。
- ・ブースを出したが、今回の会場レイアウトは他ブースの様子がお互いに見渡せ、何をしているかが分かって良かった。

◎ 気付き・改善点など

<開催・案内・場所等について>

- ・開催日について、他の行事や学校の登校日とかぶらないよう調整するとよい。
- ・対象年齢のきょうだいも参加できることなど、案内を分かりやすくできるとよい。
- ・チラシにブースの様子や配置図など具体的な内容を掲載したらイベントのイメージがしやすい。
- ・多くの人の興味を引く10秒程度周知動画を作成し、HPへつなげるなどSNSの工夫をしてみたらよい。
- ・参加者の居住地のバラつきなどを把握し、次回の場所設定の参考にするとよい。

<内容について>

- ・ボッチャやペタンクなどのニュースポーツは幅広い世代を取り入れるのに有効である。
- ・野菜をプレゼントする時に、野菜を使ったレシピを一緒に配布すればよかった。
- ・親世代の健康に関する動画が見られるQRコードがあればよい。
- ・タバコに関する啓発、保護者への声かけを、もう少しできたらよかった。

<市民への啓発について>

- ・にこフェスに参加していない人にもアプローチできるよう、開催報告をするなどの工夫があるとよい。学んだ人の声を発信してみる。
- ・毎年イベントを続けることで参加者の意識付けにつながる。

グループワークで活発なご意見をいただきました。各グループからいただいたご意見と、それをもとに事務局で共有した、今後の方向性をまとめて報告します。

(2) リーフレットの活用について話してみよう

【グループワークでの意見】

◎ リーフレットに関する気づき・健康づくりに関する話題 (栄養・食育) ・子どもの食育を推進するためには、親への食育が大切。親の食生活が整わないと子どもの食生活は改善しない。 (ケンシン) ・歯科の無料検診があることを初めて知った。 ・職場の健診で要受診と判定されても受診をしない人が多く、意識が低いと感じる。 (身体活動・運動) やまぐち健幸アプリ ・やまぐち健幸アプリをもっと知ってもらいたい。 ・アプリを活用しポイントを貯めて特典を受けている。職場で盛り上がったり、グループでつながりもできた。 ・健幸アプリに母推グループを作って歩くことで、自身の健康づくりにつなげられると思う。 (こころの健康) ・子ども達にも相談窓口を知ってもらいたいので、幅広い世代に見てもらえると良い。
◎ リーフレットの活用方法 <リーフレットの配布> ・医療機関、薬局などの待合に設置すると、自身の健康に関心が向いている人が多いため手に取ってもらえる。 ・健康に関心の高いと思われる健康づくりに関するイベントに参加した人から、家族や知人に渡してもらう。 ・イベントで配布する。 ・マラソン大会など健康に興味がある人が集まる場に配布する。 ・カフェに設置する。飲食組合へ相談してみる。 ・経営者は社員の健康を保つ責任があり関心が高いため、経営者へ配布するのは効果があると思う。 ・老人クラブの会合、地域の自治会の会合に出向いて話す。自治会長に配布する。 ・高齢福祉課、介護施設などに配布を依頼する。 ・子育て支援センターでの離乳食教室の日など、講習会の時に説明して配布する。 ・商工会議所で実施している医師の健康相談の機会に配布する。 ・地区の料理教室で歯と口の健康、喫煙についてなど話題にできる。 <リーフレットやQRコードの掲示> ・公民館などの公共施設のトイレに貼る。QRコードがあると読み取ってみる人は多いためQRコードだけでも貼るとよい。 ・医療機関や薬局、駅の待合や学校、スーパーの壁にラミネートして貼る。 ・イベント時に関連分野部分を掲示する。(例えばスポーツフェスタで運動の分野を掲示するなど)

グループワークで活発なご意見をいただきました。各グループからいただいたご意見と、それをもとに事務局で共有した、今後の方向性をまとめて報告します。

【 事務局まとめ （今後の方向性・事業に活かす工夫点など） 】

（１） 第2回健康づくり推進のつどい（にこフェス）を振り返ろう

◎にこフェス参加者以外へもイベントの内容を伝え、健康づくりを啓発する方法を検討する。

⇒実施した取組

★にこフェスの内容を紹介したホームページを作成する。

★健診などの各事業に来られた方に見てもらえるよう保健センターホールに掲示する。

◎次回開催時や日頃の市の事業（教室やイベントなど）において、チラシを作成する際に、会場や対象年齢の案内を分かりやすく工夫する。

◎ターゲット世代（親世代）に情報を届けるために、引き続きSNSやQRコードを活用した取組の工夫を継続する。

（２） リーフレットの活用について話してみよう

◎効果的な対象や方法を検討し配布する。

・医師会、歯科医師会、薬剤師会に協力をいただき、医療機関、歯科医院、薬局の待合で、健康に関心がある人にリーフレットを手にしていただけるよう、配布する。

・市内の丸久店舗に設置していただき、幅広い年代の目に触れられるよう、配布する。

・子育て支援センターに配布をし、イベントの際などに、利用していただく。

◎リーフレットの内容やQRコードを掲示できる方法についても検討していく。

◎やまぐち健幸アプリは個人でも、職場などのグループで取組むことでも効果的に活用されている。より広く普及し、健康づくりの推進につなげるために、特典の充実や協力店舗との連携、市ホームページやチャレンジシートの充実を図る。